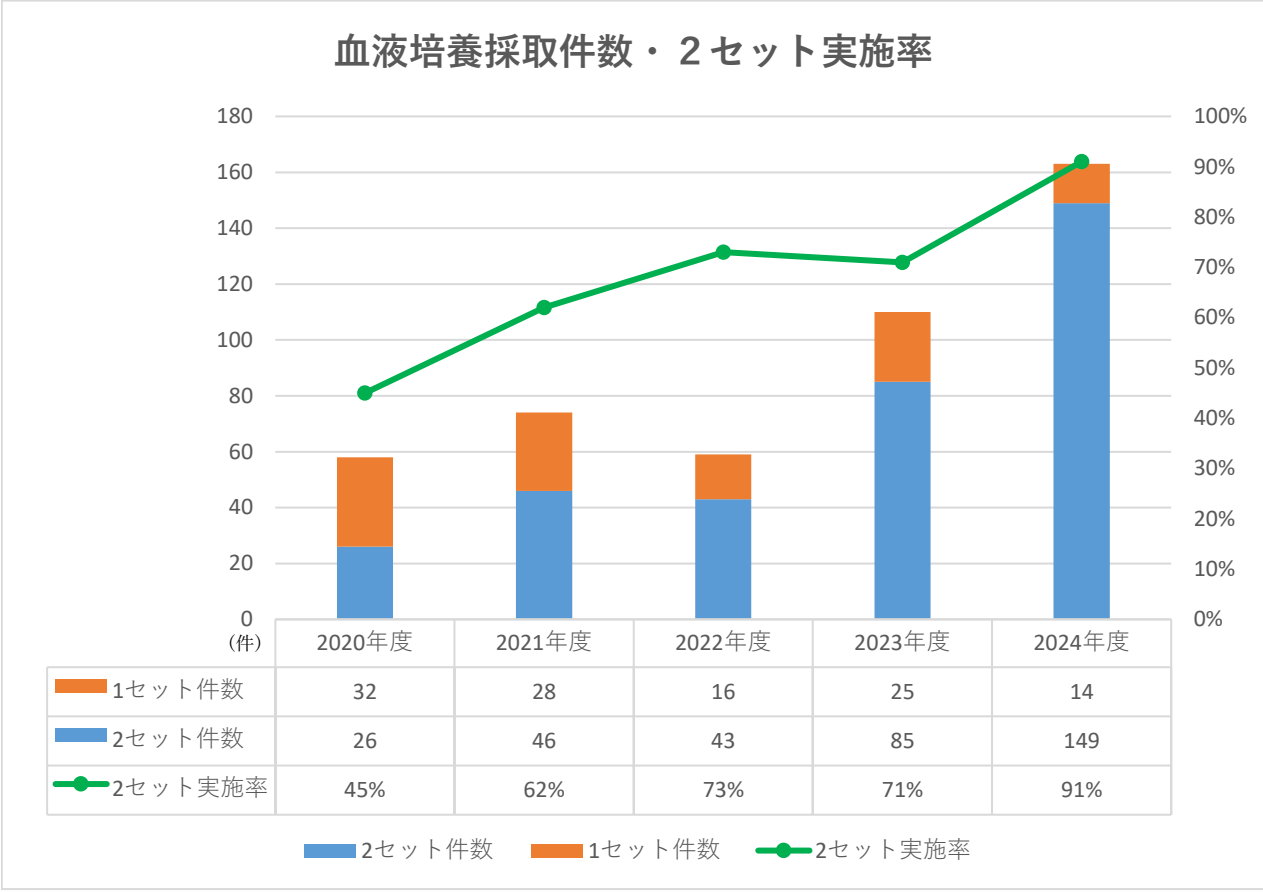




血液培養とは、血液を培養することで血液中の細菌や真菌などといった微生物を検出するための検査であり、感染症の診断や治療に役立つ。広域抗菌薬を使用する際、投与前に血液培養検査を行うことが望ましいプラクティスと考えられている。

血液培養は1セットのみの採取の場合、偽陽性となることがあるため、微生物の検出感度を上げる目的でも、2セット以上採取することが推奨されている。このため、発熱患者に対する血液培養の有用性や2セット採取の必要性についての研修会を開催するなど、ICT（院内感染対策チーム）が中心となり職員への指導・教育を行っている。

その結果、昨年度は目標値である2セット率90%を初めて達成することが出来た。また、血液培養の実施件数も大幅に増加した。